

来れない患者、外に出向く診療が必要

新潟県医療救護班 厚生連糸魚川総合病院

山 岸 文 範

4月26日～28日

4 / 26

石巻日赤到着11:00

休憩を入れて新潟市から5時間の行程（糸魚川から新潟市までは前夜に移動しています）
渋滞は思ったほどでない。石巻日赤には救急入口より入り2階で短時間のオリエンテーションを受ける。内容は徐々に変更されているとのこと。

市内商業施設はかなり再開されているようにみえたが、暗くなってから営業している店舗がとても少ないことに気がつく。石巻駅前には魚臭さが残っている。日常生活はかなり戻りつつあるようだが、避難所には非日常な世界が残されていた。

エリア4の門脇中学校にて六日町病院の丸山先生より申し送りを受けた。

なおJMATチームは石巻女子高、住吉小を担当。

診療

患者が途切れず、エリア幹事の兵庫県チームへのあいさつは、午後の診療が終了してからになった。

門脇中学での患者数は予想より多く、眼科診療を入れると本日は45名であった。

仮設住宅の抽選が始まっており、5月中旬には門脇中学校も避難者の減少が見込まれる。それまでは5人チームで丁度良い人数と思われた。薬剤師も同行すべき状況が続いている。

診療内容は感冒症状が多いが、ストレスによる精神疾患患者も見受けられた。岐阜大学の精神科医の巡回と、日赤グループの心のケアナースチームの巡回もあり連絡を取り合える。

小児の感冒処方では日赤基準の約束処方ができており、院外処方で対応可能となっていた。
眼科診療は兵庫チームの医師が5 / 4までおこな

う予定。なお、隣の石巻中学診療所には one day type のコンタクトレンズが多量にストックされています。

処方に関しては基本的に自分たちの持ち込み薬を使用することになっており、今後もそれなりの準備が必要である。今のところは感冒薬、降圧剤、糖尿病薬が中心。瓦礫の片づけに伴っての外傷もみられ、破傷風への対応も必要です。

看護協会の災害支援チームは本日で終了。代わりに地元のナース2名がボランティアで避難所を巡回してくれる。彼らとのコンタクトは確立しました。

診療中、患者たちは淡々と被災時の様子を話してくれました。ニュースでも流れましたが建造中の船とともに漂流していたという方。4日間飲まず食わずで最初に食べたのが生の油揚げだったと話してくれた方。目の前で夫を流されたので四十九日に皆で集まって街を見に行くつもりだった、けれど我慢できずに今日行ってきた、それから具合が悪いので診てくださとおっしゃる老婦人。おぼれていたところを助けられたけど、寒くて寒くて我慢できなかったから、寝かしてくれと言いつけたんだという女性。

厳しい環境、支援チームの消耗減も大切

宿泊所となる永井いきいき交流センターは固定電話がないためか、ナビが使えず。到着までかなりの時間を要した。夜間の走行は、道路に段差があるため甚だ具合が悪い。レストランが幾つか開いていたのが見える。

余震は本日もあったが糸魚川で感じる横揺れでなく、たての揺れ方なのが震源に近いことを実感させられた。

夕食は避難所で差し入れの弁当、魚肉ソーセージ。山岸と加藤(薬剤師)は昼に食べなかったカップそばを加えた。ちなみに隣の日赤チームはしゃ

ぶしゃぶ！！

4 / 27

朝、5時起床。全国各地からの日赤グループ、コーディネーター付きの長野県チームも同時に活動開始。ご飯を鍋で温めるため、結構時間がかかる。電気はあるが、電子レンジ無し。

6:30に出発。7時過ぎに被災地を見学する。表現のしようがない。避難所となっている中学は高台にあって助かったが、その周囲は多かれ少なかれ浸水をこうむった模様。

8:30 エリアミーティング（石巻中学校2階）

メンバー全員で出席。

避難所の数は150所で減少している。ラインの整理を考えているとのこと。

要介護者の発掘が活発化している。

薬手帳の作成をしていくこと。

短期間の入院を受け入れるショートステイベースが開始された。石巻日赤に入院させるほどではない要点滴患者を受け入れるとのこと。

発達障害児の相談受付が開始されたとのこと。

診療

診療患者は20名弱。小児も含めて微熱程度の乾性咳嗽の患者が続いている。避難所内はとても綺麗に片付けられているが、換気が悪い。窓を開け放つのは高齢者には辛いし砂埃が入る時もある。空気清浄機をエリア幹事に請求した。

避難所で昼間から毛布にくるまって動かないような人の中には、必要な処方切れでも忘れている患者が混じっている。

要介護のアセスメントシートができていて、必要性のありそうな場合はチェックをした。

精神疾患が多め。近くに児玉精神科クリニックがあるが、混雑のため受診困難になっている。

石巻市立病院が臨時診療所を開始。再診患者のみが対象。ただし電子カルテのバックアップは2週間前までの文字情報のみ。2年前まで使っていた紙カルテは、外来、入院共にほぼ完全に失われているとのこと。

午後、資生堂の社員が化粧品を配っていた。夕

方からは炊き出しがあるとのこと。

外国人のマッサージボランティアが入っている。

明日からの交代チームはがんセンターの石田先生（内科）、看護師、薬剤師の3名という連絡が入る。3人ではきついのではないかと。

夕方、日テレのNEWSゼロの取材あり。咳嗽の患者が多いことと空気清浄機、早期の仮設住宅への移動が必要と説明。4月29日に放映されましたが赤面ものでした（・_・:）

帰る寸前に兵庫チームから患者の紹介、釘を踏んだ男性。破傷風トキシシンと創処置。

宿泊

18時頃に帰路に着く。石巻日赤に寄り日誌の提出、薬品の受け出し。ミーティングには出席せず。本日の宿泊所への移動はスムーズ。夕食はまたしても差し入れの弁当、それにカレー、親子丼の組み合わせ。日赤、長野県チームと食事の差は無し。しかし長野県は4/30より松島の旅館に宿泊することになったとのこと。新潟県チームも松島か仙台にホテルを確保できないだろうか？食事の用意にかかる時間と体力を考えると、もっと便利な場所に移ってもいい時期かと思えます。

震災49日、がれきに祈る僧侶の姿

4 / 28

5時起床

エリアミーティング

ショートステイ、介護施設の開設があり、徐々に医療以外に力点が移っている。車イスの方の入浴など福祉関係の要求も増加。慢性期疾患は近医へ誘導するようにとのこと。

診療

午前中に患者13名。やはり咳嗽患者が多い。糖尿病、高血圧の処方継続が目立つ。近医へかかるように誘導するが、仮設住宅の抽選が続く時期であり、皆どこに住むのか分からない。車も無く遠くへは通えないので、今の時点ではかかりつけ医も選び様がない。結局、院外処方を利用して長期処

方を継続せざるを得ない。ラインの集約は必要ですが、避難所の人数がかなり減少するまでは、この診療所を閉鎖するのはまずいように思われます。

石山師長が体育館、武道場を巡回。階段を上がって診療所にくることすらできない避難者などを発見。この狭い空間でも医療から疎外される患者がいることに愕然とする。地元の巡回ボランティアナースだけでなく、我々も積極的に打って出ないと十分な医療を提供できないことを実感。心のケアチームのナース（日赤）たちが、避難所の子供たちと遊んでくれている。

11時過ぎにがんセンターグループの石田先生より電話あり。無事に石巻日赤に到着したとのこと。1時過ぎに診療所で申し送りを予定する。

12時過ぎになるも患者の受診があり。診療所に来ることによって気持ちを保っている患者もいて、直接の医療のみでなく、ここでのやりがいを感じた。

カップラーメンを食べ終わったところで次のグループが到着。JMATが5名、がんセンターチームが3名の構成。門脇中学にがんセンターチーム3名とJMATの2名、残り3名が市立女子高、

住吉小学校に向かうこととした。混成チームでの人数分けについては臨機応変に変えていくのがよさそうです。申し送りに約1時間をかけ、3日間の情報を記したノートを残して、引き上げとなった。診療所の前でボランティアナースのお二人とともに記念写真を撮ってから、出発。

帰りがけに被災した市立病院に向かったが、そこでの惨状もとても言葉にすることが難しい。3月11日から数えて四十九日ということもあり、僧侶が一人、がれきに向かって祈りをささげている姿が印象的でありました。

我々の次のクールからメンバーが3人になります。JMATチームの担当患者数が少ないことを考えると、混合チームで巡回や門脇中学診療をした方が効率的と考えます。今後については仮設住宅への避難住民の移動状況を見たうえで、隣の石巻中学へ診療所機能を統合することを考える必要があります。

宿舎に関しては、派遣当初と比べ交通事情が改善していますので、より良い環境を確保すべきと思います。